

# 花のお江戸を歩く会

## 下町の花菖蒲ハシゴ散歩

### 「堀切菖蒲園～小岩菖蒲園～善養寺」

緊急連絡 = 09085831528

#### 《散歩道のご案内》

源頼朝が武蔵国を制覇し鎌倉に幕府を開いた時代、この地域周辺は豪族の葛西氏の城塞があったと推定され、それが堀切の地名由来になったと伝えられている。菖蒲の由来は、室町時代から栽培がはじまり、江戸時代に小高園が開園し、明治時代には武蔵園、吉野園、堀切園、観花園などが続々と菖蒲園が開園し、江戸時代から続く東京を代表する菖蒲の名所になりました。

今日は、下町の路地裏に鎌倉時代に開創された古寺を巡りながら、花菖蒲の名所である堀切菖蒲園と小岩菖蒲園を梯子しつつ、日本一大きい黒松で知られる江戸川沿いの名刹「善養寺」まで歩きます。地味ながら路地の向こうに江戸が見える散歩道です。

#### 《散歩道の順路》

堀切菖蒲園駅→正王寺→氷川神社→天祖神社→妙源寺（安積良斎縁）→小高園（江戸時代の菖蒲園）→極楽寺（いぼとり地蔵）→堀切菖蒲園（花菖蒲6千株）→菖蒲七福神→ランチ→京成線「堀切菖蒲園駅」・・・京成線5駅（185円）・・・「江戸川駅」→小岩菖蒲園（花菖蒲5万株）→北野神社→宝林寺→本蔵寺→篠崎街道→善養寺・小岩不動（日本一の黒松）→万福寺（横綱：栃錦縁）→柴又街道→昭和通り→JR「小岩駅」解散

#### 《個別ガイド》

##### ① 正王寺

武蔵国葛飾郡下千葉村清滝山正王寺は、治承2年の創建。往時、源頼朝卿は八王子権現（氷川神社）を深く尊信し、坂西より此地に移し、田園百貫文を寄られた。江戸時代には、慶安の年間、三代将軍家光公御鷹狩の刻、境内を通らせられ、八王子の宮を拝せられ、征夷大將軍の始祖たる源右幕下の勸請たりし事を聞き、5石の荘園を寄附するなど御朱印を賜はる。当寺の山門は朱色のため、一般に赤門寺と呼んでいる。

##### ② 氷川神社

正治元年（1199年）武州一の宮（現在の埼玉県さいたま市）氷川神社を勧請して、下千葉村（現在地）の鎮守として奉斎される。また、同敷地内には1178年に源頼朝公により、関西方面から移された八王子神社も御鎮座されている。

##### ③ 天祖神社

当社の創祀は永萬元年、伊勢の皇大神宮の御分霊を勧請したもので、後に境内末社として八幡宮、稻荷社、天神社が祀られ、また境外末社として菖蒲七福神、菖蒲十二支神があり

堀切の神明さんとして地域の尊崇をあつめております。

#### ④ 妙源寺(安積良斎縁)

嘉元 2 年 (1304) あるいは建武年中 (1334-36)、天目上人 (1257-1337、日蓮上人の弟子で中老僧の一人) の創立と伝えるが、その場所は明らかではない。江戸時代のはじめには退廃したが、十三世日珖 (-1696) が再興し、江戸本所番場町 (墨田区東駒形 1 丁目) に移ってからは、大名・儒者・歌舞伎役者の菩提寺として栄え、中でも幕府の金座役人後藤氏は天正以来の檀徒として、当寺の再建に力を注いだという。大正 12 年 9 月の関東大震災で焼失、同 15 年現在地に移転した。墓地には、幕府昌平坂学問所の教官安積良斎 (都文化財指定)・東条一堂・大名六郷家・歌舞伎役者森田勘弥・河原崎権十郎歴代等の墓がある。

#### ⑤ 小高園(江戸時代の菖蒲園)

小高園は、江戸時代の天保年間に開園した、我が国最初の花菖蒲園です。この花菖蒲園は、昭和十七年 (一九四二) に閉園しますが、天保初期の一八三〇年から数え、実に百年以上、堀切一、つまり日本一の花菖蒲園として栄えました。写真は明治時代の「小高園」です。

#### ⑥ 極楽寺(いぼとり地蔵)

宝徳元年 (1449) 紀伊根来寺の普濟亜闍梨の創立。永禄 3 年 (1560) 8 月、大洪水のため本堂以下ことごとく流失したので、同 5 年 5 月正濟法印が再興した。過去数回にわたる水害のため、多くの記録を失ったが鎌倉・室町時代の板碑を保存し、かつては「文永 9 年 (1271) 9 月」の板碑もあった。境内の薬師堂の本尊は<寅薬師>または<砦内の薬師>ともいい、室町時代に領主窪寺氏の城内にあったものという。なお境内の<首塚>は付近から発見された多数の頭蓋骨を埋葬し、供養の碑を建てたものと言われている。門前のイボ取り地蔵に塩をふりかけ、その塩をイボにすりこむと良く治ると伝えられる。

#### ⑦ 堀切菖蒲園(花菖蒲6千株)

「堀切菖蒲園」は、まさに堀切のシンボリック的存在です。海拔 0 メートル地帯である堀切は、昔から湿潤な土地として菖蒲の栽培に適していました。

一説には室町時代からこの美しい花に魅せられた当時の地頭久保寺胤夫が奥州郡山附近の安積沼から種子を持って来て自邸に培養を始めたとも、また一説には、寛文・延宝 (1661~1680)、堀切村の小高伊左衛門が全国各地の花菖蒲を収集し、庭に植えたのが始めともいわれ、その後、本所の旗本万年録三郎から当時の逸品として知られた「十二一単」を、花菖蒲の愛好家松平左金吾(菖翁)から「羽衣」「立田川」などの品種を譲り受け繁殖させたことから、現在まで堀切と菖蒲は切っても切れない間柄となっているのだそうです。

そのような訳で、堀切には元々多くの菖蒲園が存在していました。最初の菖蒲園は、江戸末期に開園した小高園、そして明治に入ると武蔵園・吉野園・堀切園・観花園などの菖蒲園が開園しました。堀切の花菖蒲の様子は「江戸百景」に数えられ、歌川広重・鈴木春信など著名な絵師による浮世絵にも描かれています。

また明治には、「東京遊行期(明治 39)」「東京近郊名所図絵(明治 43)」などに次々と堀切の菖蒲園が紹介され、全盛期は明治中期から大正末期だといわれています。しかし残念なが

ら時代の流れとともにそのほとんどが閉園や廃園、菖蒲園は宅地へとその姿を代えていきました。そして現在ただひとつ残っているのが、この「堀切菖蒲園」なのです。→[ランチ: やる気茶屋]→京成線「堀切菖蒲園駅」…京成線5駅(185円)…「江戸川駅」

### ⑧ 小岩菖蒲園(花菖蒲5万株)

江戸川河川敷に広がる小岩菖蒲園は、地元の方から寄贈された花菖蒲をもとに、区が回遊式の庭園にしたもので、5から6月に50,000本の花菖蒲が咲き誇り、都会のオアシスとして都内名所の一つになっています。菖蒲田周辺にはフジバカマなどさまざまな野草がみられます。→江戸川リバーサイド散歩

### ⑨ 善養寺・小岩不動(日本一の黒松)

真言宗豊山派で本尊は地蔵菩薩。奈良県の長谷寺を総本山、東京の護国寺を大本山に仰ぎ「星住山地蔵院」と号し、俗に「小岩不動尊」とも言われる。今から400年程前、足利12代将軍義晴公の大永7年(1528年)、京都府山城醍醐山の頼澄(らいちょう)法師が霊夢のお告げにより、この地に下向し不動明王をまつるお堂を建てたのが始まりで、現住職は第36世になる。

#### ★影向の松★

樹齢600年以上。大正15年に東京都の天然記念物の指定を受けている。平成23年に国の天然記念物の指定を受けている。繁茂面積では、日本一の松と言われている(松の種類はクロマツ)影向(ようごう)とは、神仏がこの世に現れた姿のこと。東西31メートル、南北28メートル、茂っている広さが約900平方メートル(272坪)におよぶ。根元の幹まわり4.5メートル、高さ平均3メートル、一番高いところで8メートル、幹を支えるための支柱82本。

善養寺の名が広く報道されたのは、昭和54年(1979年)頃から昭和55年(1980年)にかけて起こった「日本一のマツ争い」だった。境内に生育する「影向のマツ」と香川県大川郡志度町(2002年4月1日に他の4町と合併してさぬき市となる)の真覚寺境内に生育していた「岡野マツ」は、双方とも「わがマツこそ日本一の名木」と譲らず、1年余りにわたって論争が続いていた。その争いを見かねた大相撲立行司の木村庄之助が仲裁に入り、「どちらも日本一につき、双方引き分け」と裁いた。地元小岩の出身で、当時日本相撲協会の理事長を務めていた春日野親方も「双方を東西の横綱に推挙する」と庄之助の裁きを後押しし、二人の計らいによって「日本一のマツ争い」は無事に解決を見た

### ⑩ 万福寺(横綱:栃錦縁)

宥唯上人が開山となり、天文5年(1536)創建と伝えられる。明治15年に区内で2番目の公立小学校が本堂を借りて開校したので区登録史跡となっている。小岩生まれで近代相撲の開祖といわれる第44代横綱栃錦の菩提寺でもある。→柴又街道→昭和通り→JR「小岩駅」解散